

部活動の功罪（スポーツ文化）

米 石 達 也

1 はじめに

日本の教育から部活動が失われようとしています。OECDが実施しているPISAの調査において日本の教員の労働過多が浮き彫りになったからです。特に、中学校教員の労働時間は過労死レベルにあるとも言われ、具体的な労働内容を精査した結果、他国と比較して部活動が教員の労働時間を引き延ばしていることがわかりました。それに加えて部活動は持ちたくない并希望する教員が増えており、国を挙げて学校での部活動の活動縮減に取り組んでいます。今年度は新型コロナの感染症対策により一層の部活動離れとなりました。今後は、部活動を経験していない若者が大人になっていき、そして部活動を経験していない教員たちが生まれてきます。

これから学校の部活動離れには拍車がかかり、学校は本来の姿である「読み書き算盤」を教えることが中心の場になるはずです。

そうなった場合、中学校はどのようになるかをいくつかの側面から想像してみます。

2 働き方とかかわり方が変わる

【職員の勤務について】

- ・中学校で設定している最終下校の時刻は、帰りの会終了の約10分後となる。
- ・生徒の登校時刻は、職員が出勤する時刻の15分後となる。
- ・勤務時間内では、スーツ等きちんとした身なりが求められる。
- ・土曜日や日曜日の職員の出勤は行事を除いてなくなる。

【職員の資質について】

- ・集団としての生徒を巧みに動かせる教員に限られてくる。
- ・体罰で処分される職員が減る。大きな声を出す教員が少なくなる。
- ・教員の言葉遣いが丁寧になる。
- ・職員は放課後、学校以外での時間を充実させ、退勤時刻が早くなる。
- ・悉皆研修以外の自主研修に参加する等授業力向上を図る職員が増える。

【学校の教育課程について】

- ・生徒活動全般や会議等は勤務時間内に設定される。
- ・土曜日、日曜日の行事は削減される。

【生徒の変化について】

- ・運動能力が低下する。
- ・家での滞在時間が増える。
- ・生身での生徒同士の関係性を築く機会が減る。
- ・文化的なものを深める機会は減り、eスポーツが本物のスポーツだと考える。

いかがでしょうか。ちょっと極端なものもありますが、傾向として間違っていないと思います。部活動が学校から離れることでこのようなことが考えられます。

部活動の削減により、教員の働き方は皆が求めるような形に変わってきそうです。

現在の先生方は、主婦以外の職員は7時前に出勤して部活動を含めたそれぞれ生徒の活動に関わっています。8時から学級活動が始まり、授業があり、そして帰りの会になります。帰りの会が終わるとすぐに部活動が始まります。6月になると最終下校は7時近くになるので、生徒を校門の外に送り出して職員室に戻ると7時30分になります。それから、事務処理、授業の準備等があり、9時などはまだまだ宵の口でお菓子を食べながら、その日一日の生徒たちの様子の情報交換をしたりもします。さらに遅くなる職員は近くのそば屋で出前を取ることもあります。ひと昔前は、話足りない職員たちでそのまま飲みに出かけていました。飲み屋で話すことも生徒のことばかりです。生徒たちの将来についてであったり、今の指導方法が適切かどうかであったり、次に行く行事の内容であったりです。話すことがなくなると、テレビの内容であったり、遊びに行く約束もします。実際、勤務時間が終わるや否や皆でTDLに出かけることもありました。

昔は、仕事もそれ以外の時間も学校の先生方と一緒に、生徒と一緒にあったので一人でいる時間は極端に少なく、家に帰る時間などほんの僅かで寝るために戻るようなものでした。頭も体も学校の中にどっぷりと浸かっていました。どこまでが勤務時間でどこまでが自分の時間なのか境は曖昧で、どこに行くにもジャージでいたので余計分かり難くなっていました。大学時代の友人とも疎遠になり、家族と会話する機会すらなく、仕事をするのも、遊びに行くのもいつでも同じ学校の先生方と一緒にでした。今、振り返ってみても労働時間は過酷で多忙を極めていましたが、多忙感はありませんでした。このような状況であったにもかかわらず、心の病で休む先生など考えられませんでした。「多忙が職員の心の健康に良くない。」と言っている人は多くいますが、あれは嘘だと思います。多忙が良くないのではなくて、「多忙なのに支えたり、励ましてくれる仲間がない。」ことが心の健康に良くないのだと思います。だいたい多忙でない職業などありません。支え合う職場の環境さえあれば、療養休暇をとる職員は必ず減るはずです。

さて部活動ですが、私は部活の指導は大切な教育だと思っています。

部活動のほとんどの時間は勤務時間外で行われるものですが、教師と生徒、保護者が一つの目的に向かってお互いの時間を共有することこそが本当の教育だと思うのです。

目標を達成するために、教師は生徒に沢山の思いをぶつけます。生徒同士も主張したり、折り合いをつけたりしながら成長していきます。その過程で、教師を模範とすることもあるだろうし、反面教師としてみることもします。教師を一人の人間として捉えることで沢山のことを感じ取りながら、人間として成長していくのだと思っています。そして、膨大な時間と苦労を重ねたにもかかわらず、思いが届かないことがあることを知ります。これも大切です。部活動では、保護者に教師の苦労がわかり易く伝わるので、大なり小なり感謝の心を持ってくれます。スーパーでばったり会った時に近寄ってきて挨拶をしてくれたり、練習中に差し入れを持ってきてくれたり、顧問のために歓迎会や送別会を開いてくれることもあります。部活動でお世話になっているという感謝の心が学校での生活指導に活かされることもあります。

私の場合、結婚式に招待してくれるのは部員だった生徒ばかりですが、これは授業で影響を与えた生徒より、部活動で多くの生徒に影響を与えたからだと思っています。それは一人の人間として部活動の時間に本気で向き合ったご褒美なのだと思います。

私には、部活動の時間にこそ本当に伝えたい多くのことがあったのです。